

夜勤で必要な輸血の知識

輸血検査の夜勤は、検査の迅速性および正確性が要求され、臨床検査技師の業務でも非常に緊張する業務です。また、輸血検査は比較的マニュアル作業が多く、検査結果の誤りが重篤な過誤を招く可能性があります。さらに、臨床から輸血に関連するさまざまな問い合わせが多く、通常、輸血業務を担当しない技師には負担が大きい業務です。

本特集では、どのようなときに輸血が必要となるか、適正な輸血を実施するために必要な検査や検査値の判断は何かについてご解説いただいています。輸血の実施の際、夜勤を行う技師に必要な知識として、①医師が果たすべき同意書の取得、②輸血有効性の評価と記録、③輸血後感染症への対応、④看護師が行う輸血実施の確認手順、⑤血液センターや医療機関が実施している輸血の有害事象に対する予防的な取り組みについて簡潔に解説していただきました。最後に夜勤を担当する技師への教育も紹介しています。

全ての項目で最重要課題として ABO 異型輸血を起こさないことが挙げられております。その他、さまざまな適正な輸血に関する取り組みが取り上げられており、あらためて安全な輸血実施の知識として役立ていただければ幸いです。 (曾根 伸治)